

「喜びませうねえ」

「われ〜が特に指導しなくても、子どもにはそういう興味があるんですがね、中には、そういう傾向の發達してゐない子どももありますから、導いてやる必要は、そういう自然物に接する機会も少いですから、幼稚園でその機会を作つて上げるんですね。一度そういう傾向が引き出されれば、子どもは喜びますよ」

「そこで、とんぼ研究、貝研究が始まりますんですね」

「研究といふと學問らしいが、子どもとしては、確に研究ですね」

「もの知りになりませうね」

「またそんなことおつしやつてはいけません。もの知りなんかにするのぢやなくて、もの知らうといふことを養ふといふ譯です。理科知識でもなく、そうした心の働き方が主なんです」

「それで、すべ〜具、ぎざ〜具でもよろしいんですね」

「よろしいといふ譯でもありませんが、

貝の名稱だけ覚えても、すべ〜、ぎざ〜を自分で觸つたことのないのより、よろしいですね」

「觀察と申すのは、自然界ばかりで」

「いゝえ。家の中の道具でも、自動車でも、電車でも、汽車でも」

「いよ〜博學」

「またいけません。學じやない。知つてることがえらいのぢやなくて、自分で實物を、よく注意すること、し得ることが望ましいですよ。つまり、知識そのものを深山奥へられて持つてゐるといふのではなく、自ら實物から知識をつくり出してゆく心の第一の働きの強くなるのですよ」

「そこが、幼稚園の有り難いところでございますね」

「有り難いかどうかが、そこが幼児教育の一つの役目ですね」

「私も、小さい時そういう教育を受けませんでしたから、知識は教へられて覚えること、ばかり思ひまして」

「教へられたらげのことだから、さつさと忘れて。いやこれは失禮。ハ、ハ、ハ、」

「ホ、ハ、ハ、ハ、」

## 母の書棚

觀察に就てのお話が出た關係から、その參考にする本をと、思ひついた二つ。最も古いのと、最も新らしいのと。

○ファーブル昆虫記

林 建夫譯  
山田 吉彦譯

岩波文庫 各册金四拾錢

これは、ごなたも御承知の有名な古典ですが、その割に讀まれてゐなかつたりします。兎に角、子どもは自然觀察指導には、おとながよく勉強して置く必要のある本です、これをこのまゝ讀ませるのは少し大きい子のことですが、幼児の母にとつて、先づ第一の指導書です。

○觀察の實際 東京女子高等師範學校

附屬幼稚園編

日本幼稚園協會 金一圓

ファーブルと並べるのは、沙汰の限りでもありますが、幼稚園児に何をどう觀察させるかの實際的指導書で、幼稚園の先生方に廣く讀まれてゐます。お母さん方も、心ある方はどうぞ。